

全日本空輸株式会社

1. 企業概要

1. 1 グループ経営理念

～私たちのコミットメント～

ANA グループは、「安心」と「信頼」を基礎に

◎価値ある時間と空間を創造する

◎いつも身近な存在であり続ける

◎世界の人々に「夢」と「感動」を届ける

1. 2 事業規模

2003年の一年間で、4360万人のお客様を運んだ。世界第7位の旅客数である。保有する航空機は、グループ会社のエアーニッポンも含め計167機である。

環境側面の特徴

A. エネルギー消費

◎航空運送事業を主体とする ANA グループは、エネルギー消費のほとんど（全体の98%）が航空機の燃料によるものがある。

◎一方、地上で消費するエネルギーは全体では、その2%にすぎませんが、原油に換算すると5万KLに相当する大きな量になる。

B. 廃棄物

◎グループ全体では約2万トンの排出量となるが、

◎その内航空機からのゴミ（トイレからの汚水、機内ゴミ）が全体の8割を占める。残りは地上から出るゴミであるが、

◎品目的に集中しているのは廃棄プラスチックで全体の約4%を占めている。

C. 紙の消費

◎グループ全体では約5千トンの消費となるが、その内のほとんど（94%）が時刻表・パンフレット・ポスター・機内誌等の直接航空会社としての営業活動で使用するものである。

D. 自動車

◎グループ全体では約2千2百台（リース車を含む）の多くの自動車を運行していることも、環境に対する影響としては大きなものである。

◎上記の内、約8割が空港内制限地区でのみ使用される非登録車（主にグランドハンドリング車両）であることは、一般企業と比較して特異な点である。

2. ベンチマークの目的

2. 1 日本の産業界において航空会社が環境に与えている影響を他業種との比較可能な形で把握すること。

業態の特異性ゆえ、他業種との比較が困難であり、また社内事業所間においても業態が大きく異なり（市内の販売支店と航空機整備工場等）比較が困難であるため。

2. 2 環境対策を採るうえでのプライオリティー付けに活用できるか否かの見極めを行うこと。

2. 3 航空法等により法規制が別枠で行われている航空機を国内の一般規制を基準に再評価すること。

3. JEPIX の適用

3. 1 分析対象 2002/2003 年度 ANA 単体（国際線を含む）

使用メニューは「メニュー2」

バウンダリー：「コアバランス」と「サイトバランス」

尚、全社対象の分析を行い、サイト（事業所）別の分析は行っていない。

3. 2 分析内容

A. 全体のエコバランス

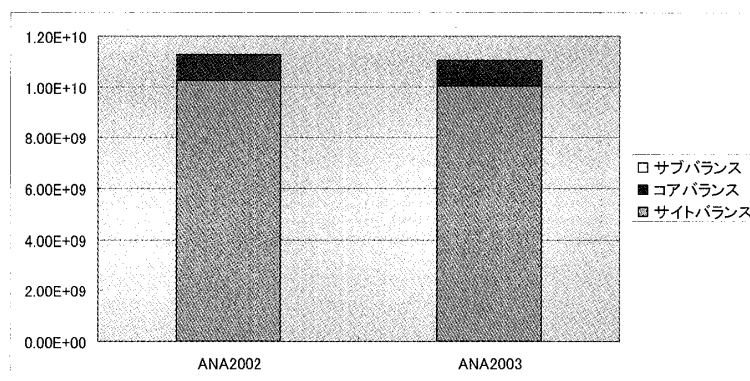
B. EIP およびエコ・エフィシアンシー

C. 環境カテゴリーバランスの推移

D. 各環境カテゴリーの起源（コアまたはサイト）

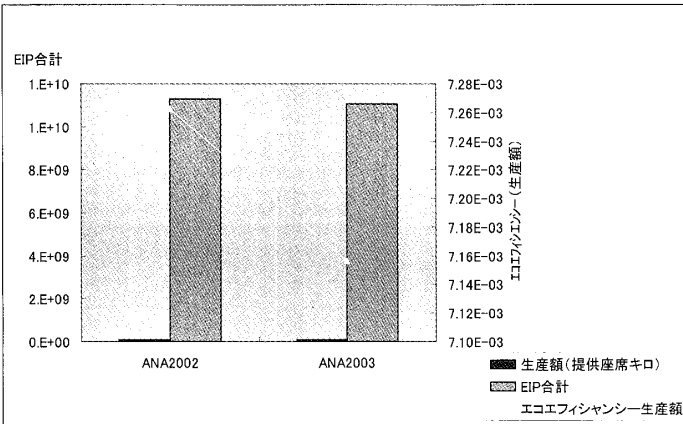
3. 3 分析結果

A. 全体のエコバランス

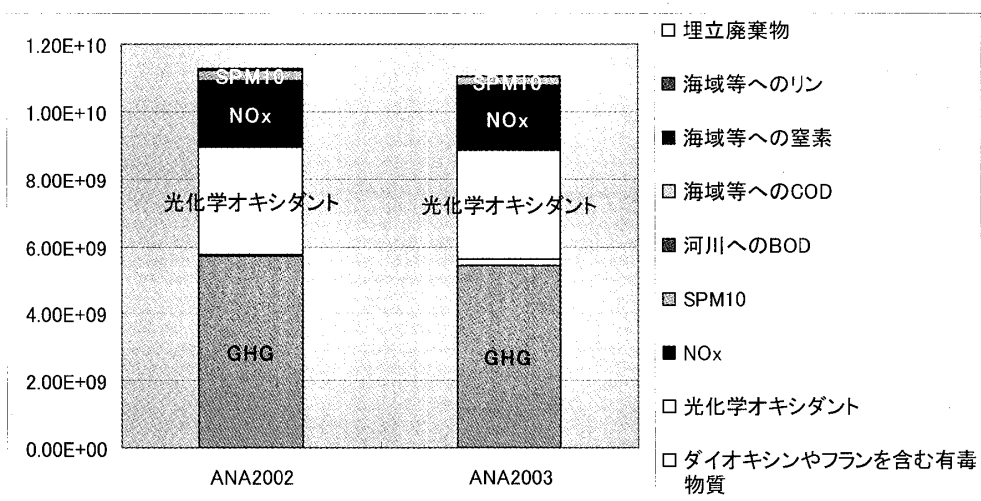


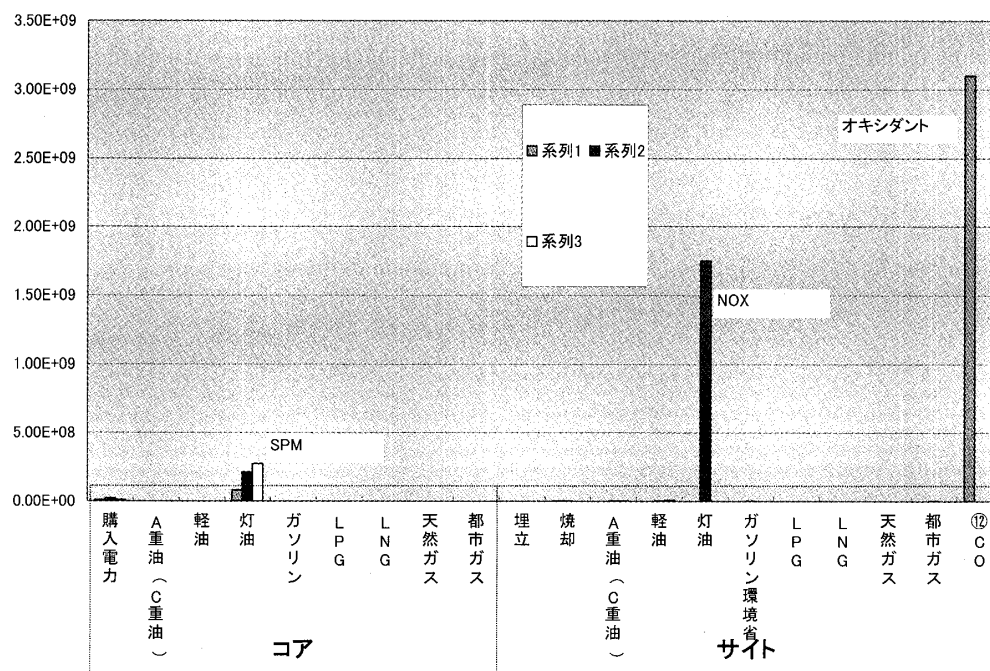
B. EIP およびエコ・エフィシアンシー

営業収入ベースではエコ・エフィシアンシーは向上、一方で、生産量（提供座席×キロ数）では減少。運航費用の削減を目的に行った小型機の稼動向上の影響が表れているものと推定。



C. 環境カテゴリーバランスの推移





4. 分析結果の考察

①「GHG」は予想通り環境影響の大きな部分を占める事を再認識

②「光化学オキシダント」と「NO_x」で全体の約半分を占める。

これは予想外の事実であり、しかも航空機を起源とするものであること。原因は、地上の一般規制にあてはめたことによるものと推定。

(なお、NO_xの数値は一定高度以下での航空機の離着陸時の排出量を使用している。また NO_xの排出は航空法の枠内での規制を受けており当社機は全てこの規制をクリアーしている)

「SPM」の存在を再認識

5. JEPIX の評価

5. 1 効果

①「外部（社会的）が受けている影響」の把握が比較的容易に出来たこと。

これまで「排出した重量」的な見方に偏っていたこと、特にGHGと同等の比重でNO_x,光化学オキシダントにも注視する必要性の認識に至ったことは大きな成果であった。

② 単一指標（EIP）で表すことの効果。

航空会社という特異な業態を持つ当社の環境評価の比較が、他業種と容易に出来ることは有意義

(業態が同じで使用航空機の差が殆どない他の航空会社との間での JEPIX での比較は無意味)。

③ 今後は、航空機の影響を除いた、地上系の環境影響の評価に更に活用の余地がある。例えば、販売支店同士、整備工場同士のサイト別比較等。

5. 2 課題

①国際線について本来的に表現し得ない点

国内線に限った DATA の抽出も可能であるが航空機燃料の半分を国際線で消費するが、これを省いた DATA が当社の実態を表すものか否かの疑問があるため、今回は国際線を含んだ DATA で算出をした。

②騒音を表現し得ない点

航空会社の代表的環境側面である騒音を表現し得ない。

③NO_xについては多めにでるような感覚がある点。